

登録有形文化財（建造物）の登録について

平成30年3月9日（金）に文化審議会が開催され、同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、下記の文化財の登録が文部科学大臣に答申される予定です。今後、官報告示を経て、登録文化財原簿に登録されることとなります。

本県関係では、平成29年11月17日に答申された尾崎家住宅主屋など3件に続くもので、合計192件となります。

【答申予定の登録有形文化財（建造物）7件】

名 称	員 数	所 在 地	所 有 者	建 築 年 代
きゅううちやまけじゅうたくしゅおく 旧内山家住宅主屋	1 棟	大野市城町 10-7	大野市	明治 15 年頃
〃 はな 離れ	1 棟	〃	〃	大正後期
〃 みそぐら 味噌蔵	1 棟	〃	〃	明治 15 年頃
〃 いしょうぐら 衣装蔵	1 棟	〃	〃	明治 15 年頃
〃 こめぐら 米蔵	1 棟	〃	〃	明治 15 年頃
〃 もん 門	1 棟	〃	〃	明治 15 年頃
えちぜんこようはくぶつかんきゅうみずのくうえもんけ 越前古窯博物館旧水野九右衛門家 じゅうたく きゅうみずのけじゅうたくしゅおく 住 宅（旧水野家住宅主屋）	1 棟	越前町小曾原 107-1-169	福井県	天保 6 年

旧内山家住宅について

- ・所在地 大野市城町 10-7
- ・所有者 大野市
- ・年代 明治中期～大正後期
- ・特徴 内山家は大野藩の郷士で、幕末には藩財政の立て直しに尽力した旧家である。

屋敷内には主屋、離れ、土蔵3棟、門が残され、いずれも近代の建築であるが、主屋は武家屋敷の間取りを継承するなど、伝統的で質の高い建築がまとまって残る。

平成2年に大野市が内山家から譲り受け、同4・5年に改修して「武家屋敷旧内山家」として公開し、現在も広く親しまれている。



主 屋



位置図



配置

①旧内山家住宅主屋^{しゅおく}

- ・年代 明治15年(1882)頃
- ・登録基準 造形の模範となっているもの
- ・特徴 二階建の主屋で敷地中央に建つ。正面には武家屋敷などに備えられた式台玄関をもち、上質な座敷をもつなど、近世の格式を継承する。



②旧内山家住宅離れ^{はな}

- ・年代 大正後期
- ・登録基準 造形の模範となっているもの
- ・特徴 平屋建の座敷で、庭に面して深い軒を出し、開放的な構えをみせる。内部は高い天井に、凝った意匠で近代らしい要素が随所にみられる。



③旧内山家住宅味噌蔵^{みそぐら}

- ・年代 明治15年(1882)頃
- ・登録基準 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- ・特徴 主屋南側にある二階建の土蔵で、食糧の保管に使用された。



^{いしようぐら}
④旧内山家住宅衣装蔵

- ・年 代 明治15年(1882)頃
- ・登録基準 造形の模範となっているもの
- ・特 徴 味噌蔵の南側にたつ二階建の土蔵で、大野を中心にみられる屋根を支える「^{ほおづえ}頬杖」をもつ。



^{こめぐら}
⑤旧内山家住宅米蔵

- ・年 代 明治15年(1882)頃
- ・登録基準 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- ・特 徴 衣装蔵の南にある平屋建の土蔵。衣装蔵と同じく頬杖をもつ。



^{もん}
⑥旧内山家住宅門

- ・年 代 明治15年(1882)頃
- ・登録基準 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- ・特 徴 街路に面して建つ内山家の正門で、扉にくぐり戸をもうける。



えちぜんこようはくぶつかんみずのくうえもんけじゅうたく きゅうみずのけじゅうたくしゅおく
越前古窯博物館水野九右衛門家住宅（旧水野家住宅主屋）

- ・所在地 越前町^{おぞわら}小曾原107-1-169
- ・所有者 福井県
- ・年代 天保6年（1835）
- ・登録基準 造形の模範となっているもの
- ・特徴 水野家は越前町熊谷で庄屋を務めた旧家で、先代の九右衛門氏は越前古窯研究の第一人者として多大な功績を遺した。
主屋は天保6年（1835）の建築で、もとは茅葺きであった。正面両脇に角屋^{つのや}を出し、内部は仏壇の間をもつなど、江戸時代に遡る越前の大型民家の例として貴重である。
近年、陶芸村に移築・改修され、平成29年10月より水野九右衛門氏の越前焼の貴重資料とともに、古窯博物館の施設として公開されている。
- ・備考 今回、越前町で初の国登録有形文化財（建造物）となる。



外 観



位置図



外観



仏間（手前）と仏壇の間（奥上段）